研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-135		17-094	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Global Prevalence of Fetal Alcohol Spectrum Disorder Among Children and Youth: A Systematic Review and Meta-analysis.

システマティックレビュー及びメタアナリシスによる子供から青少年における胎児性アルコール症候群の世界的な有病率について

執筆者

Lange S, Probst C, Gmel G, Rehm J, Burd L, Popova S.

掲載誌

JAMA Pediatr. 2017;171(10):948-956. doi:10.1001/jamapediatrics.2017.1919

キーワード	PMID
胎児性アルコール症候群　胎児性アルコール多様障害 胎児性アルコール・スペクトラム障害	28828483

要　旨

目的：
胎児性アルコールスペクトラム障害（FASD）を伴う子供から青少年には特に有効なヘルスケアが必要である。多くの国では FASD に関する一般住民レベルでの有病率に関するデータがないため、青少年における FASD の有病率を WHO 範囲内で全世界的に推定した。

方法：
MEDLINE、MEDLINE in process、EMBASE、Education Resource Information Center、Cumulative Index to Nursing and Allied Health Literature、Web of Science、PsychINFO、Scopus を用い、1973 年 11 月 1 日から 2015 年 6 月 30 日までの文献を、地域や言語を問わず、系統的に検索した。量的研究は、一般集団の子供から青少年までの FASD の有病率を診断基準や定義が確実なものを含めた。国別のランダムエフェクトメタアナリシスを行った。WHO の地域別出生率で重みづけをして算出した。

結果：
1,416 人の子供から青少年（0-16.4 歳）を含む 24 の研究が対象となった。世界の子供から青少年における FASD の有病率は 7.7/1,000 人（95%CI: 4.9-11.7/1,000 人）だった。WHO 欧州地域が最も高く 19.8/1,000 人（95%CI: 14.1-28.0/1,000 人）、WHO 中東地域が最も低く 0.1/1,000 人（95%CI: 0.1-0.5/1,000 人）だった。187 か国の内南アフリカが世界最高で 111.1/1,000 人（95%CI: 71.1-158.4/1,000 人）、2 位はクロアチア 53.3/1,000 人（95%CI: 20.9-81.2/1,000 人）、3 位はアイルランドで 47.5/1,000 人（95%CI: 28.0-73.6/1,000 人）だった。

結論：
FASD は世界的に存在し、飲酒に関連する発達障害であり、予防が可能である。今後は、妊娠期の飲酒暴露による潜在的な害や日常的なスクリーニングについての公衆衛生学的対策を広め、介入を必要とする地域に簡単な介入を行うべきである。